

	調査対象総数	利用経営体数		日乾燥処理施設	力乾燥処理施設	発酵処理施設	発酵処理施設	却処理施設	肥処理施設	化処理施設	その他	右のいずれの施設も利用しない経営体	野積	素堀貯蔵
		実数	延数											
豚	769	398	429	1		333	37	1	39	16	2	371	371	8
採卵鶏	57	34	35	7	2	14	11				1	23	23	
ブロイラー	54	17	35			4	8	2		16	5	37	37	26
乳用牛	1,044	635	636	16		462	30		116	3	9	409	396	13
肉用牛	8,381	3,537	3,559	24		3,152	99		275		9	4,844	4,844	
その他	18	11	13	9			2		2			7	7	
計	10,323	4,632	4,707	57	2	3,965	187	3	432	35	26	5,691	5,678	47

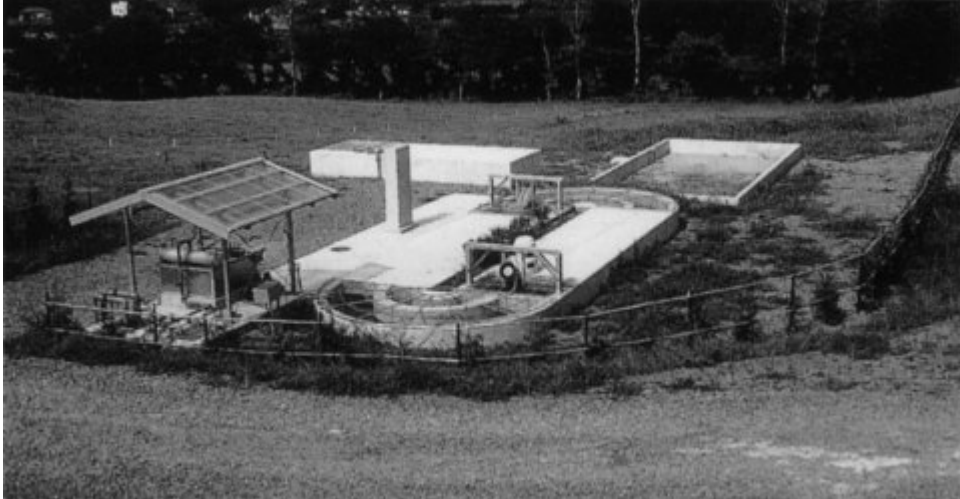
4 今後の方向性

本県においても畜産農家が減少し点的存在になりつつあることから、堆肥の広域流通を促進する必要がある。併せて大都市周辺で先行している堆肥流通促進のシステム作りや耕種農家のニーズに合致した品質の堆肥生産に向けた取り組みが早急に求められている。

近年、生ゴミ処理や集落排水汚泥等の有機質資源のリサイクル利用は、各方面から注目を集めている。生ゴミや食品加工残渣等と家畜のふん尿を混合して処理する広域施設は、県内にはないが、一般住民の理解が得やすく有機質資源の有効活用につながることから積極的に検討している。



ハウス式簡易家畜ふん処理施設(北上町)



家畜尿処理施設(畜産試験場)